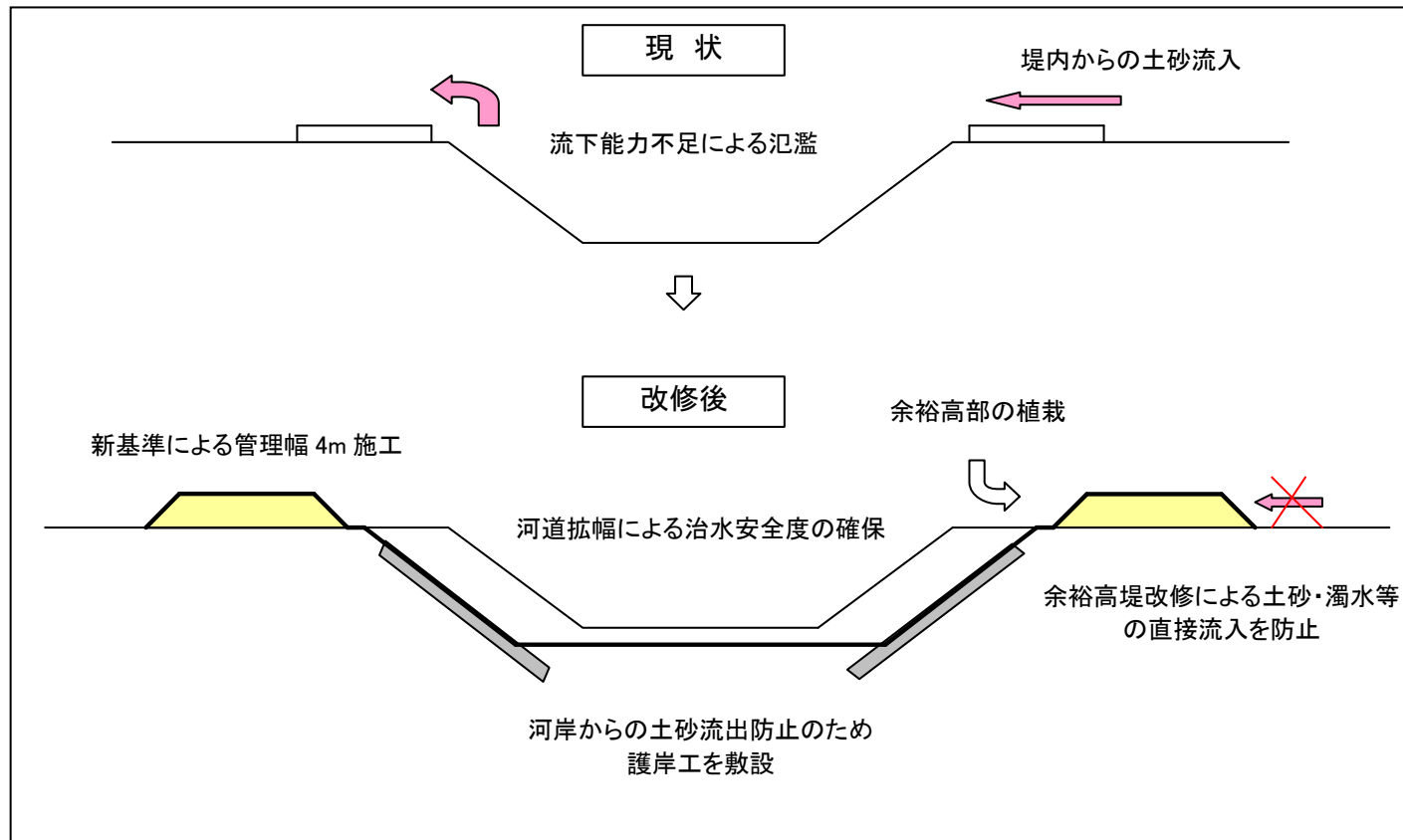


- 1 河道拡幅、護岸工施工
余裕高堤方式の改修 → 氾濫防止、河岸土砂の流出抑制
→ 隣接する畑地などからの河川への土砂流入防止
- 2 堤内水路の整備 →
 - ・ 堤内水路植生による河川への土砂流入の抑制効果
 - ・ 堤内水路に調整柵を設置、また、畑地内水路の合流部に浸透柵を設置し、降雨時の濁水の直接流入を制限
 - ・ 排水工呑口の集水柵を広く施工することにより、土砂堆積によりゲート操作に支障が出ることを防ぐ。
- 3 管理用通路の整備 → 敷砂利、伐採木の再利用

濁質流出対策(河川編)

1 河道拡幅、護岸工施工・余裕高堤方式の改修

- ・現在の河川の流下能力が劣っており、大雨時には河川氾濫の危険性が高いことから、河川の抜本的な改修が必要となる。
- ・改修にあたっては、縦断的な規制があることから、「河道拡幅方式」を原則とし、断面は隣接する畑地などからの土砂や大雨時の濁水が直接河川に流入しないように、「余裕高堤方式」とする。

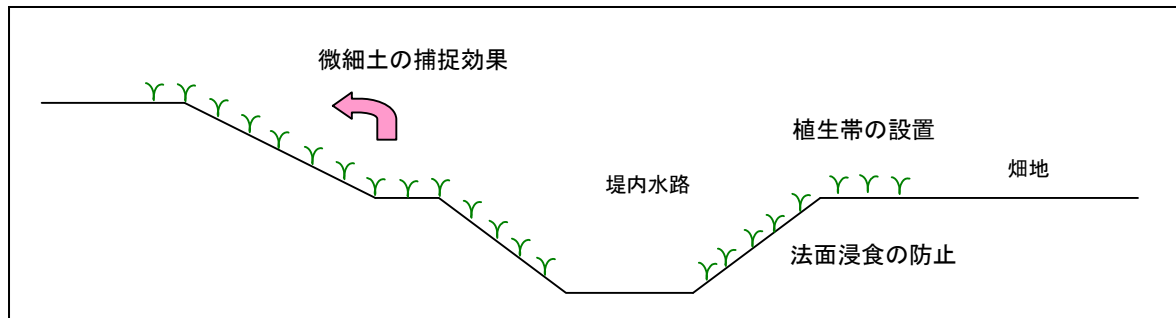


濁質流出対策(河川編)

2 堤内水路の整備

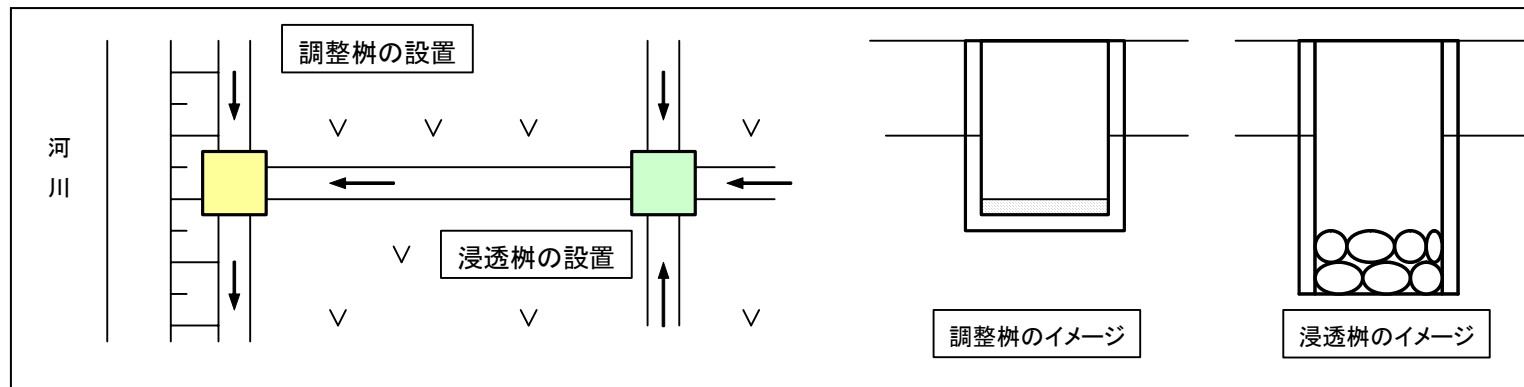
(1) 水路の植生

堤内水路法面においても植生することにより、降雨による法面浸食の防止と濁質物質の捕捉(フィルター効果)を期待する。



(2) 調整柵、浸透柵の設置

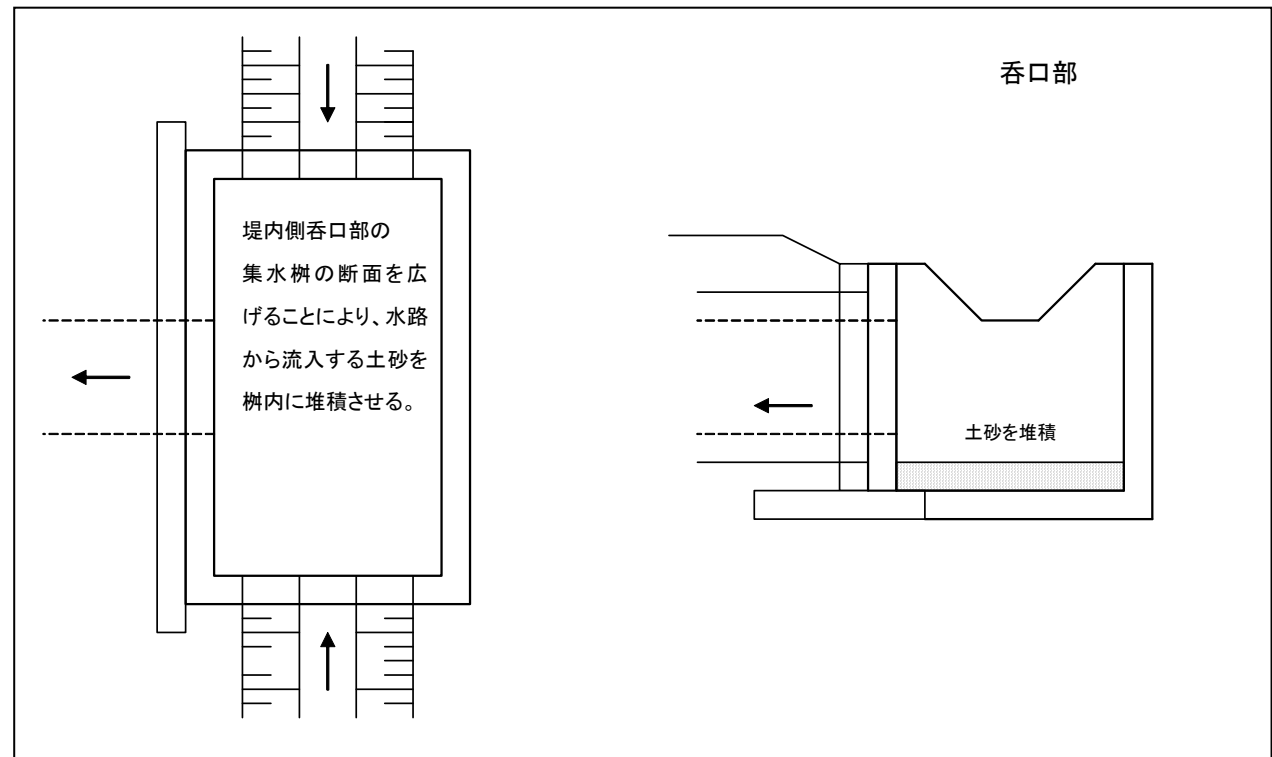
堤内水路においては、調整柵を設置し、堤内水路の水が連続的に排水されることを防止し、通常時の濁質分の沈澱を期待する。また、河川から離れた位置にある柵については、浸透柵の設置を積極的に行う。



濁質流出対策(河川編)

(3) 排水工設置箇所

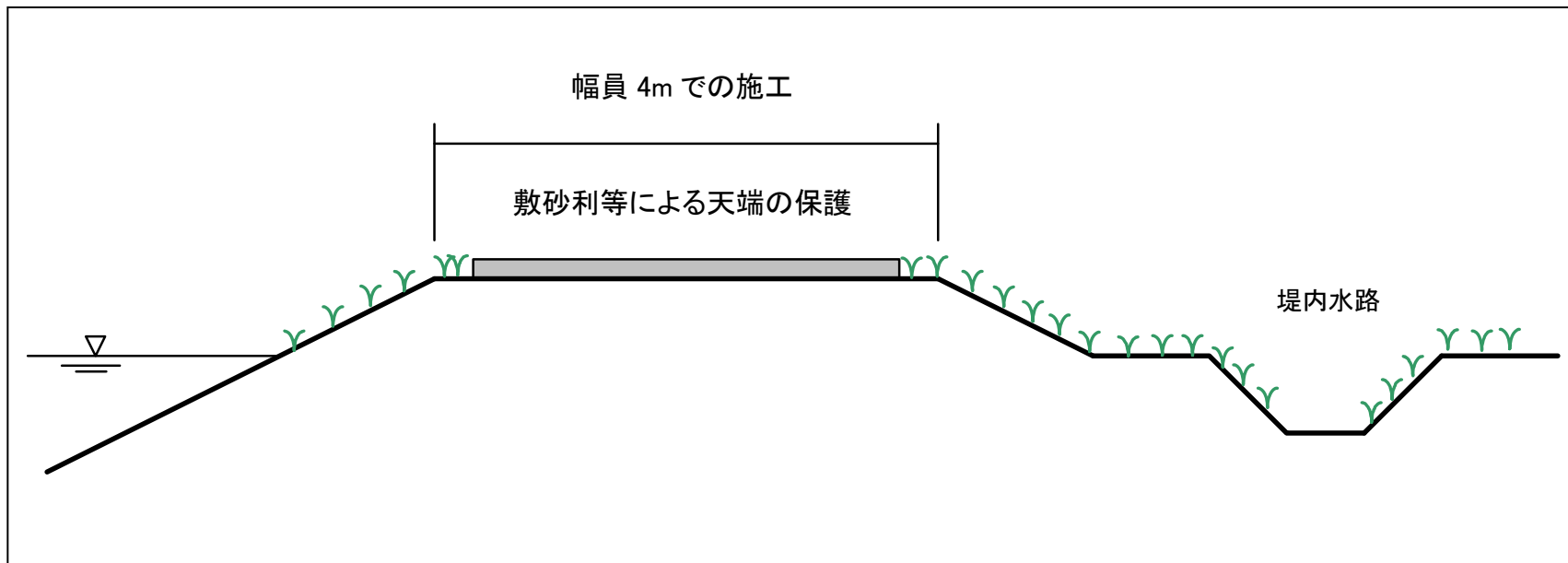
排水工の呑口に設置する集水柵は、通常の規模よりその断面を大きく(広く)施工することで、柵部への土砂堆積を促進させ、河川への土砂の流入を抑制する。



濁質流出対策(河川編)

3 管理用通路の整備

管理用通路は、新基準による幅員4mで施工、天端部分については、敷砂利や工事により発生した伐採樹木をチップ化して敷設することにより、堤防部の地山浸食を防止するとともに、大雨時の堤内側からの流入時にも、土砂の捕捉を期待する。



濁質流出対策(流域編)

- 1 堤内水路の整備 →
 - ・ 堤内水路植生による河川への土砂流入の抑制効果
 - ・ 堤内水路に調整柵を設置、また、畑地内水路の合流部に浸透柵を設置し、降雨時の濁水の直接流入を制限

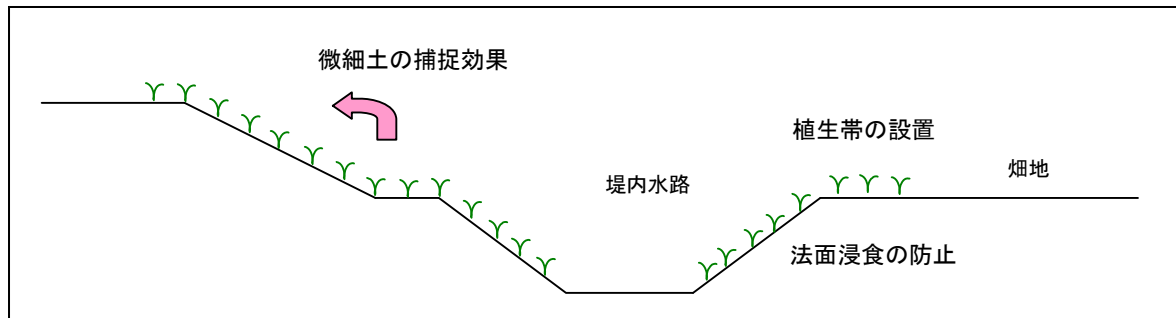
- 2 上流部にフンカゴ設置 → 上流部の山付け部ならびに河岸上部にフンカゴを設置させ、降雨時における堤内側土砂の流入を防止

濁質流出対策(流域編)

1 堤内水路の整備

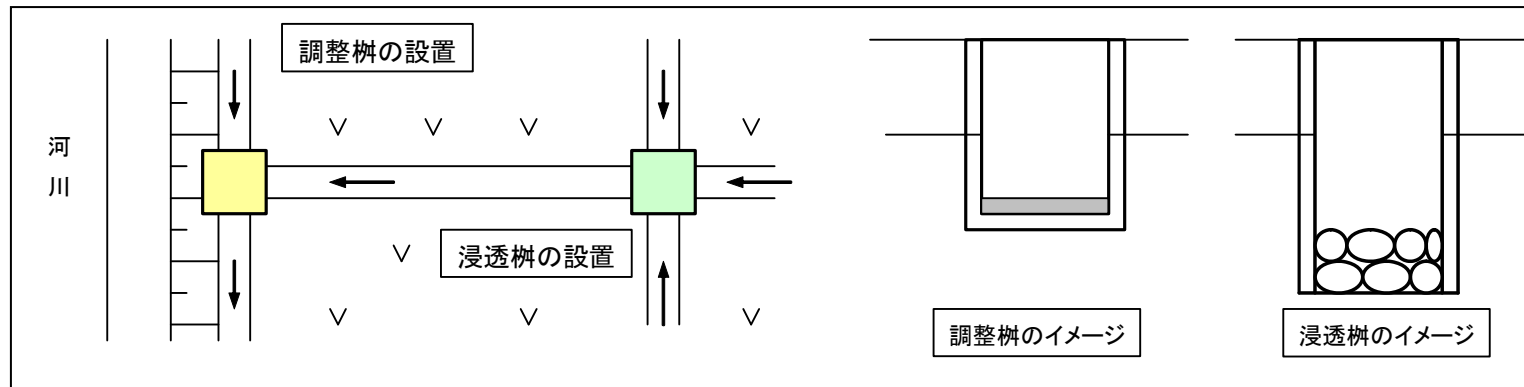
(1) 水路の植生

堤内水路法面においても植生することにより、降雨による法面浸食の防止と濁質物質の捕捉(フィルター効果)を期待する。



(2) 調整柵、浸透柵の設置

堤内水路においては、調整柵を設置し、堤内水路の水が連続的に排水されることを防止し、通常時の濁質分の沈澱を期待する。また、河川から離れた位置にある柵については、浸透柵の設置を積極的に行う。



濁質流出対策(流域編)

2 河岸上部へのフンカゴ設置

上流並びに山付け部等の法肩部(河岸上部)にフンカゴ工の設置や河畔林整備などにより、堤内側からの発生土砂の直接的な河川への流入を抑制する。

